木工研究会講習会「スウェーデンの木工」
「使い手を育む―カペラゴーデン美術工芸学校と富山大学芸術文化学部の木工教育」
開催日時　2015年5月23日（土）午後1時30分から5時まで
会場　松本市　長野県工業技術総合センター
参加者　32名　　報告者　谷進一郎

講師　小松研治氏　（富山大学芸術文化学部教授）

厳しい気候と少ない資源の北欧諸国では、優れたデザインの木の家具を生み出して世界的に評価されてきましたが、なかでもスウェーデンではカール・マルムステン（1888-1972）が、伝統と自然に根ざした生活デザインを確立して、手仕事を重視した教育機関を設けて後進を育成してきました。教育機関のひとつで、1958年に開校されたスウェーデン南部のエーランド島にあるカペラゴーデン美術工芸学校（以下カペラ）では、豊かな自然環境の中でものづくりを学ぶことができますが、ここへ1991年に初めて訪問して研修を受けて以来、10回以上も訪ねている富山大学の小松さんに、同校で受けた木工教育とそれをもとに富山大学で実践されている木工教育について、多数の画像や持参された教材などの参考品を見せていただきながら解説していただきました。

お話はまず「イントロ」としてスウェーデンの大学や病院の美しい環境を画像で映し、無機的な施設が使い手に配慮された様々な色彩や工夫された機能で満たされて、居心地の良い空間が作り出されていることなどが紹介されました。
スウェーデンではモノを信頼することで、人に快適な環境が作り出されていることを強調されていました。

カール・マルムステンは教育理念として「手と精神の共同作業」を唱えましたが、カペラの木工教育の特色は「実生活と使用者を常に意識した工芸品の制作」であって、作るためのデザインや技術を教えるだけでなく「使い手を育む」ことを重視しています。
カペラの工房・宿舎・食堂などの様子を画像で見せていただきましたが、いたるところにカール・マルムステンがデザインしたり、これまでの在校生が制作した家具や工芸品などが使われていて、どれも美しい素材で考え抜かれた機能や構造を持った秀作であり、こうしたものに日々手で触れて生活することで、使い手の感性を刺激して学べる工夫が見られました。
カペラには、家具制作・デザイン、テキスタイル、陶芸、園芸の４専攻があり、約60名の学生数ですが、全寮制で共同生活をして、時には共同制作をしながら学ぶので、相互の交流によって自然に生活全般に関心が広がる仕組みになっています。
国内外から集まる学生のキャリアや年代も多様であり、工房の中では学生間の協調も重視されて、教員は一方的に教えるだけでなく、創作に励む学生をサポートしています。

木工房には木工制作のわかりやすい参考資料が豊富に備えられているなど、学生自らが見て触れることで発想して、制作に必要な情報が容易に得られる工夫がされています。
工房内では使いやすい工夫が至る所に見られますが、学生が輪番で自分の作業を休んで「工房長」を務める時に、こうした「改善」がされている様です。

カペラの制作課題は、カール・マルムステンがデザインした椅子などを作ることもありますが、新たにデザインする場合は使い手や使われる条件が具体的な内容が多く、生活の中で作ることの意味を学びながら、価格設定まで考えたり、異素材を組み合わせるなど、社会性をもっていることも特色です。
「家具制作・デザイン」のカリキュラムでは、
基礎的なスケッチ、図面作り、模型作り、プロトタイプ制作、様々な種類の木の構造及び特徴、表面処理と仕上げ、など
応用的なキャビネット作りと家具のデザイン、スウェーデン国内外の家具製作会社、学校での研修などがあります。

小松さんがまとめられたカペラの特色は以下の通りです。
1、カール・マルムステンの優れたサンプルがあるので「真似る」から学ぶ発見の場である。
2、工房や教室だけでなく日常の生活でも学びの場である。
3、優れた使い手を育成している。
4、学内外にひろがる連携意識がある。
5、暮らしの中から考える仕組みがある。
6、教育理念と現実が一致している。

続いて、これまでのカペラでの経験を生かし、小松さんが富山大学芸術文化学部で行っている木工教育を紹介されました。

小松さんがカペラで学んだ木工教育で重要なことは、木工のやりやすい環境を整えること、という考えに基づき、これまでに作られた木工制作の様々なサンプル、図面、治具、模型など可視化教材が身近にわかりやすくあることで、限られた時間の中で学生は回り道することなく課題に集中して学んでいくことが可能になります。
そして、これまでの「ものづくり」の事例として以下の制作過程などを紹介されました。
痕跡からアイデアを発想する方法の参考例としての「タオルハンガー」
すでにあるものから発想する方法の参考例としての「鰹節削り」
冶具やゲージを使った制作方法の参考例としての「爪とぎヤスリ」
量産型作品、連携作品の参考例としての「道具箱、救急箱」

こうした様々な「ものづくり」を実現するために、使い手にアッピールする手法や企業などとも連携するアイデアなどもカペラの事例も交えて紹介されました。
その他、工夫された数々の治具や、スウェーデンの木工具まで、木工家にも参考になる多数の事例を惜しみなく公開していただきました。

最後に富山大学とカペラゴーデンで学んできた小栗佳那子さんがこれまでの制作事例を紹介して、スウェーデンの木工の突き板を生かした技術などを解説してくれました。

カール・マルムステンと代表作の椅子

講演する小松研治さん

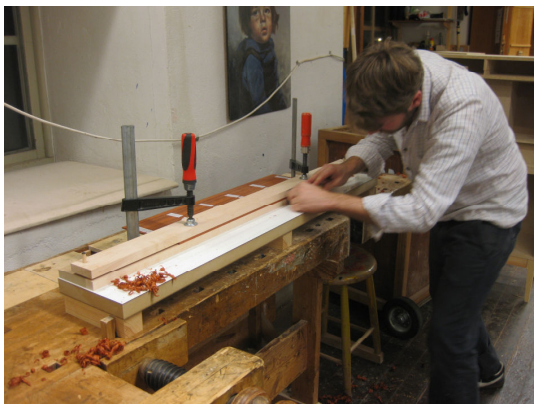
スウェーデンの木工具など

富山大の木工房

カペラゴーデン美術工芸学校の木工房（画像提供　小栗）

手加工室

機械室



合板の制作

抽斗サンプル

講義　道具の説明

プレゼンテーションの様子